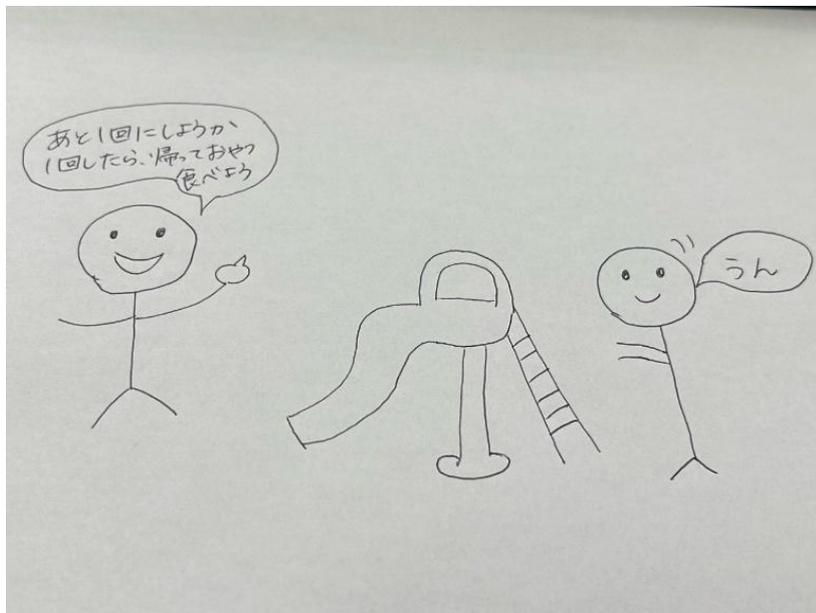




2023年6月



〈子どもへの声かけの工夫〉

「遊びを切り替えられないとき」②

子どもの遊びが切り替えられない時は、「時計の針が～になったら」「あと〇回したら」など、終わりのタイミングや次の行動をわかりやすい方法で、一緒に決めてみましょう。「帰って〇〇しよう」「〇〇に行くよ」など、これからの楽しい予定を伝えることで、次の行動への見通しと期待を持つことができ、気持ちの切り替えがしやすくなります。

遊びを次の行動に切り替えられたら、ほめてあげましょう。切り替えられた行動をほめ、認められた経験を繰り返すことで、自信につながっていきます。



2023年6月



<カード遊び（カルタ）>

療育でよく用いられている遊びについて紹介します。

日本の伝統的な遊びのカルタに、子どもの育ちを促すヒントがあります。カルタは、人が読み上げた言葉を聞き取る力や、言葉の意味だけでなく音にも注意を向ける力の向上にもつながります。絵を手がかりに探すことも楽しめますが、自然と文字に興味を持つきっかけになります。

子どもの発達や、興味に合わせてカルタの種類を変えています。文字が中心のカルタや、食べ物、動物の絵を中心に描いてあるものなど、さまざまな種類を使っています。



2023年8月



<ぬいぐるみ隠し遊び>

療育で取り入れている「ぬいぐるみ隠し」の遊びを紹介します。

かくれんぼの様に、ぬいぐるみを隠してそれを探すゲームです。どこに隠したらみつからないか、相手はどこを探すかを考えることで、相手の視点に立ってみることに繋がります。

役割を交代しながら行うことで、相手の隠し方を取り入れたりする姿もみられます。



2023年9月



<～子どもへの声かけの工夫～>

『負けることが受け入れられないA君の場合』

「負けたくない」というよりも、負ける状況や気持ちが想定できていないことも多いです。勝敗の手前で、「A君が負けるかもしれないよ。負けたらどうする？」と聞いてあげるとA君はハッと気づきます。「負けたらうれしいよね…。もう一回やってもいいし、次のゲームをしてもいいよ」と可能な選択肢を伝えておきます。

見通しを持てることで、負けて悔しくてもそこで悲しみや怒りに打ちひしがれることなく、次に気持ちを向けやすくなることも多いです。



2023年10月



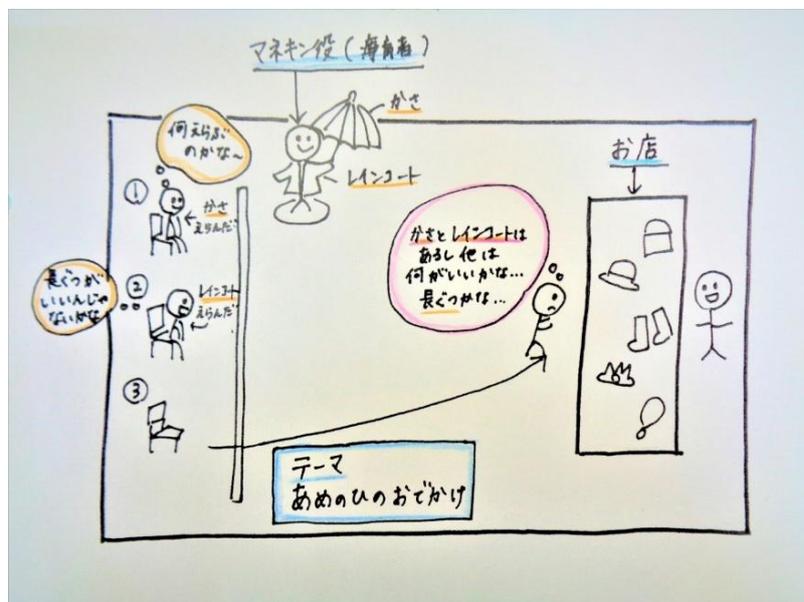
<難聴療育>

今月は、難聴児療育における取り組みについて紹介します。

うさぎ園に通っている1～2歳の耳の聞こえにくいお子さんたちは、自分の名前を呼ばれてもよくわからなかったり、パパやママ、友だちを呼んだりすることが難しい場合が多いです。そのようなお子さんが自分や友だちの名前を「知って、わかる」ように、1歳児には顔写真のカード、2歳児には各自のマークを張ったお帳面を使っています。



2023年10月



〈着せ替えリレー〉

今月はグループ療育で取り組んでいた「着せ替えリレー」を紹介します。

順番に1人ずつお店に行ってテーマに必要なアイテムを1つ選んで買います。

買ってきたものはマネキン役の療育者に着せて、次の友だちとタッチで交代します。全員が終わった後に誰が何を買ってきたかみんなでマネキンを見合います。

他の人が買ってきたものを参考にしながら、テーマに必要なアイテムを考え、みんなで1つものを完成させることをねらいにしています。



2023年11月



〈よく噛んで食べること〉

うさぎ園では発音が不明瞭な子どもさんの発音の練習をしていますが、発音の練習と同じくらい大切なのが「よく噛んで食べること」です。

よく噛んで食べることは舌を動かすことにつながります（歯の上に食べ物をのせて噛むために舌を使います）ので、正しい音を出すための舌の動きの練習になります。

よく噛むためには、個々の子どもさんに合わせた固さと一口量が大切です。

ちょうどよい固さと量に調整すると噛みやすくなります。

うさぎ園では、発音の不明瞭な低年齢の子どもさんの食事についての相談をお受けすることもあります。



2023年12月



〈サーキット遊び〉

療育で取り入れているサーキット遊びについて紹介します。個々に合わせながらねらいを持って取り組んでいます。

- ・始まりと終わりや回数が事前にわかることで安心して取り組み、遊びに区切りをつけることや、達成感を感じられるようにしています。
- ・療育者がこどものしたいことをくみ取りながら、代弁することで自分の要求を言葉で伝えられるようにやりとりを促しています。
- ・遊びを手助けしたり、遊び方のモデルを見せたり、うまくいったことを一緒に喜びながら人と一緒に遊んで楽しかったという経験を積み重ねていきます。
- ・さまざまな遊びを取り入れながら、体の使い方や遊び方がわかるようにしています。



2024年2月



〈子どもの行動〉

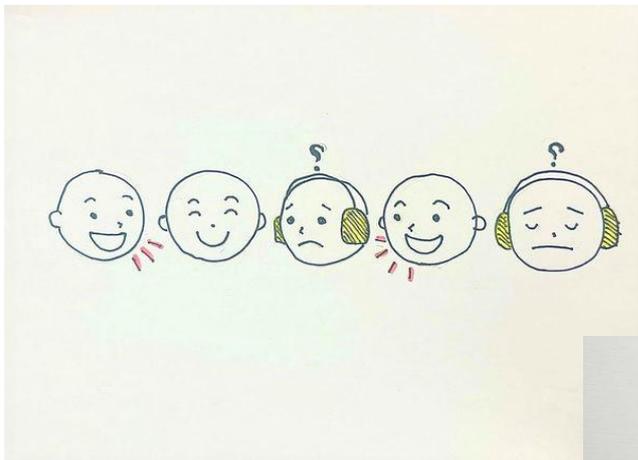
～子どもさんが集団参加しにくい時～

笑っていたりふざけたりするなどの行動があります。

その裏には、“わからない”“嫌だ”という気持ちがあるかもしれません。



2024年2月



〈イヤーマフ体験〉

難聴部門では、保護者の方々にイヤーマフを着用して懇談の輪に入っていただくことで、難聴の疑似体験をしていただく機会を設けています。イヤーマフを着けることで軽い難聴の状態になりますが、後で皆さんに感想を発表していただくと、『誰がどのタイミングで話し始めるかわからない』『聞き取れない声があって会話についていきにくい』という声があがります。

このような体験を通してお子さんの聞こえに対する理解が深まったり、より分かりやすいかわり方を考える機会にさせていただきたいと思っています。